

館腰地区

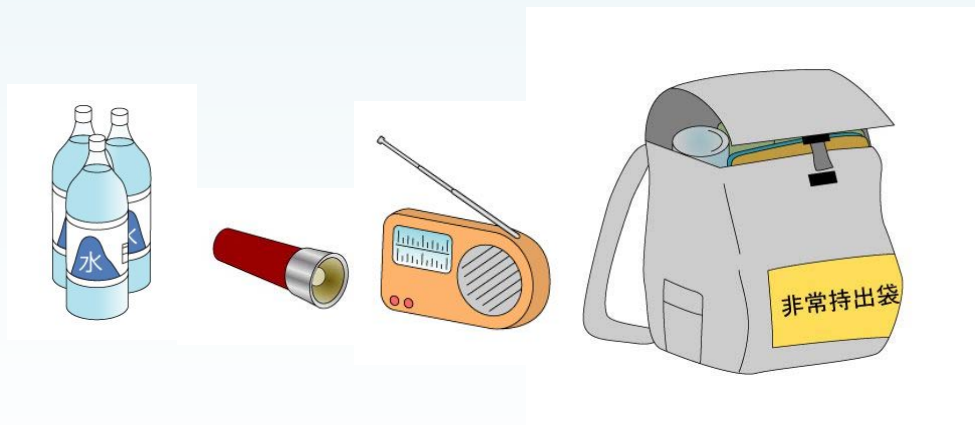
防災マニュアル

「地域ぐるみの防災体制」

～自分たちの地域は自分たちで守る～

ひもを通して目立つところにおきましょう

家族で定期的に確認しましょう



名取市・館腰地区

目 次

1. はじめに -----	P 1
2. 館腰地区について -----	P 1
3. 館腰地区の過去の災害について -----	P 2
4. 館腰地区の災害対応計画 -----	P 3
5. 館腰地区の災害予防計画 -----	P 8
6. 避難所の開設・運営への協力について -----	P 1 0
7. 館腰地区防災マップ -----	P 1 1
8. 平成 25 年～26 年の災害と教訓 -----	P 1 3
9. 我が家の防災メモ -----	P 1 4

館腰地区の避難場所など

1 はじめに

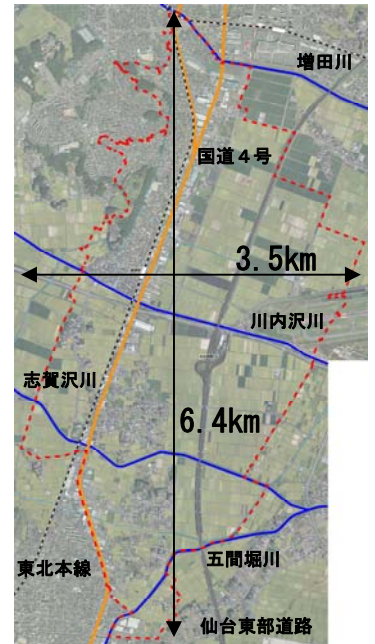
名取市では、東日本大震災の教訓や豪雨災害の経験を踏まえ、平成 25 年 12 月に自分の命は自分で守ることを基本とした防災・減災への取り組みを示した「名取市民防災マニュアル」を作成し、全世帯に配布しましたが、大規模災害による被害を軽減するためには、地域の実情に応じた防災対策を、名取市と地域の皆さんが一体となって実施していくことが重要です。

このマニュアルは、名取市が地域の皆さん（区長さん、町内会長さんなど）と一緒に作成したもので、館腰地区で想定する災害やその対応方法などを示したものです。

2 館腰地区について

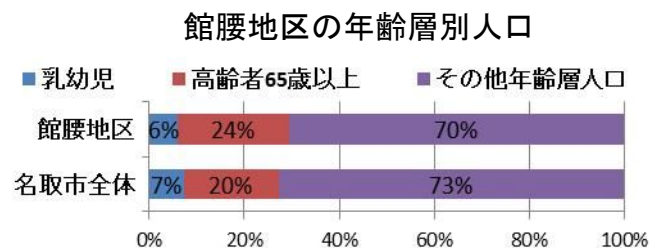
地形・地勢

- 館腰地区は、面積が 10.74km²、東西に約 3.5km、南北に約 6.4km です。
- 市の中央の南側に位置し、中心部を J R 東北本線と国道 4 号線仙台バイパスが走っています。また、地区の北には増田川、地区の中央には川内沢川、地区の南には志賀沢川、五間堀川が流れています。
- 地区の標高は 5m 未満であり、低い土地が多いです。
- 砂や礫で形成された地盤のため、地震の際は比較的揺れが大きくなる傾向があります。
- 館腰小学校西側の傾斜地は、土砂災害警戒区域に指定されています。



世帯・人口

- 館腰地区は、3,135 世帯、7,907 人が住んでいます。
- 名取市全体と比較すると少し高齢者の割合が高い地区です。



館腰地区の世帯・人口

地区名	世帯数	人口	乳幼児	高齢者 65歳以上	その他 年齢層人口
館腰地区	3,135	7,907	474	1,859	5,574
名取市全体	28,561	76,107	5,471	15,347	55,289

平成 26 年 12 月末現在

3 過去の災害と教訓について

災害名称及び 災害発生年月日	災害による被害状況と 当時の状況
宮城県沖地震 昭和 53 年 6 月 12 日 (仙台市で震度 5)	ブロック塀の倒壊などによる死者、建物被害による多くの負傷者が発生し、都市ガスなどライフラインが停止しました。 名取市では、負傷者 200 人、全壊 17 棟、半壊 61 棟、一部損壊 1,623 棟の被害がありました。
8・5 豪雨 昭和 61 年 8 月 5 日 (累計雨量 400 ミリ)	台風 10 号の進路に、海上から多量の水分を含む東風が吹き込んだことにより、宮城県で記録的な豪雨となりました。 館腰地区では床上浸水 25 世帯 92 人、床下浸水 201 世帯 793 人の被害がありました。
9・22 集中豪雨 平成 6 年 9 月 22 日 (時間雨量 84 ミリ、 累計雨量 478 ミリ)	樽水ダムが満水となり、増田川がはん濫したほか、川内沢川、志賀沢川などの中小河川がはん濫しました。 館腰地区では床上浸水 414 世帯 1,329 人、床下浸水 721 世帯 2,264 人の被害があり、地区のほとんどが浸水しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・線路の西側では浸水深が大きくなりました。 ・飯野坂 5 丁目では土砂崩れがありました。 ・2 度浸水しました。(樽水ダムからの放水、川内沢川)
東日本大震災 平成 23 年 3 月 11 日 (名取市で震度 6 強)	マグニチュード 9.0 の巨大地震により、強い揺れが約 3 分間継続し、巨大津波により市内で 911 人が犠牲になりました。 4 月 7 日の深夜には、名取市で震度 6 弱の余震も発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・(海溝型地震のため) 人的被害はほとんど発生しませんでした。 ・家具の転倒、屋根瓦の落下、壁のひび割れなどが発生しました。 ・道路の段差、路肩の崩落、地盤沈下などが発生しました。 ・災害直後から数日間電話が繋がらない時期がありました。 ・停電は 3 月 16 日まで、断水はさらに続きました。 ・津波被災地域から多くの方が避難して来ました。 ・館腰駅からの避難者もいました。 ・流通が止まり、食料品等が不足しました。 ・田畑が津波で冠水し、塩害による耕作不能になりました。



東日本大震災 館腰小学校の避難所



9.22 集中豪雨災害 浸水後の植松 4 丁目

●東日本大震災における館腰地区の対応

①炊き出し	町内会で炊き出しを行ったり、地元のスーパーへ協力依頼して水などを調達し、住民に配布しました。
②一時避難所の開設	集会所で、津波被災地域の避難者などを受け入れました。
③避難所への支援	地区のボランティアや婦人会が炊き出しを行いました。 消防団が食料の配布や水の調達・運搬を行いました。 衣類の提供や風呂の提供、支援物資の整理・配布、物干しの設置、清掃などの協力も行いました。
④在宅避難者への支援	提供されたパンやおにぎり、野菜などを、配布しました。 3月下旬～7月、災害対策本部から届く食料や生活物資を民生委員、区長、町内会長を通じて在宅被災者に配布しました。
⑤断水対策	公民館の玄関脇に臨時の水道を設置しました。岩沼市の利用者も多数来所しました。

4

館腰地区の災害対応計画

地区で想定する災害

- ・大雨や集中豪雨による増田川等河川および用水路の氾濫と浸水（地区全体）
- ・大雨等によるがけ崩れ（飯野坂）
- ・直下型地震の地震動による住宅被害や液状化（地区全体）
- ・直下型地震等によるブロック塀の倒壊や火災（特に住宅密集地）

近年の異常気象により、各地で時間雨量 100 ミリを超える経験したことのない豪雨が多発しており、9・22 集中豪雨災害を上回る規模の水害が発生することも考えられます。

阪神・淡路大震災や新潟中越地震のように建物に甚大な被害を与える直下型地震を引き起こす断層は日本中どこにあってもおかしくないといわれています。

●海溝型地震と直下型地震

海溝型地震	海で発生する地震。津波を伴うことがある。直下型地震と比較して建物被害は少ない。
直下型地震	内陸で発生する地震。震源が近いため揺れが大きく、建物に甚大な被害をもたらす。余震が大きい。

地震災害時の対応

「大災害は来ない」、「自分だけは大丈夫」と油断せず、自分の身は自分で守る意識を持ち、隣近所や地域で助け合いましょう。

1 緊急地震速報や揺れを感じたら 自分の身を守る。



2 揺れが収まったら

- (1) 火元や家族の安全を確認する。
- (2) 隣近所に声をかける。
- (3) 災害情報を入手する。

※ ラジオなどで情報を得て、震源が直下なら大きな余震に備えましょう。

3 避難の判断

- (1) 家屋が倒壊しそうな場合は、指定避難所に避難する。
- (2) 不安な場合は、一時避難場所に集まり、余震が収まったら家に戻る。
- (3) 避難の際は通電火災に備えブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉め、非常持出品を持つ。

※ 「通電火災」は、地震による停電が復旧した際、電気製品が再稼動したり、傷ついた電気コードがショートするなどして、近くの燃えやすい物に引火する現象です。

4 町内会・自主防災組織の活動

● 自主防災組織の意義

阪神・淡路大震災では、地域住民が協力し初期消火で延焼を防ぎ、倒壊家屋から救助活動を行い多くの命を救いました。要救助者の8割を地域住民が救助したのです。

大規模な地震が発生したときは、家屋の倒壊、火災の発生、倒壊物による道路の通行止め、信号の停止による渋滞などが発生し、行政の救助に時間を要することになります。

消防機関などの公助の活動が到着するまで、地域住民が協力し、防災活動を行うことにより、地域の被害を軽減することができます。

地域の防災体制の役割により、次の初動活動をすることが重要です。

(1) 安否確認、避難誘導

大きな地震が発生した場合は、まず安否確認です。

日頃から安否確認の体制を整備しましょう。



(2) 初期消火、救出・救護活動

消火器などを使い、初期消火を行いましょう。

救出活動を行う場合は、余震に注意しましょう。

(3) 情報収集や情報伝達

被害状況を把握し、市に救助要請を行いましょう。

市からの情報を掲示するなど、情報伝達を行いましょう。



(4) 集会所など一時避難所の開設、炊き出し

集会所や公園などに避難し、余震が収まるのを待ちましょう。

防災用資機材を活用し、炊き出しをしましょう。

(5) 災害時要支援者の支援、指定避難所の運営協力

災害時要支援者の支援や指定避難所での協力を行いましょう。

●地域の助け合い

館腰地区では、津波被災地域からの被災者などのため集会所を開放しました。町内会が発電機で灯りを確保し、石油ストーブを持ち寄り、企業に水や食料の支援をお願いするとともに、炊き出しなどを行いました。

また、避難者支援のために防災無線で衣類や毛布の提供などを呼びかけると、すぐに集まりました。

在宅被災者の支援では、3月12日から4日間、地区の皆さんから提供されたおにぎりや野菜、パンなどを、防災無線で呼びかけ館腰公民館で1日3回配布しました。

5 海の近くでは津波の用心

大きな揺れや長い揺れを感じたら、すぐに避難しましょう。

津波は川を遡上するので、川から離れることも大切です。

東日本大震災では、津波は五間堀川などを遡上し、館腰地区まで車が流されてきました。

風水害から命を守るために

■対応の基本

- ・建物の2階以上に避難する。
- ・低い土地の平屋やがけの近くなど不安がある場合は、早めに避難する。
- ・浸水が始まってからの避難は極力避ける。

1 風水害への対応は情報収集から

集中豪雨、ゲリラ豪雨、落雷、竜巻などの風水害は、「大気の状態が非常に不安定になっているとき」に発生します。

普段からテレビ、ラジオなどの気象情報に注意し、「大気の状態が非常に不安定になっている」、「今年最大級の台風（寒波）」などの表現があったときは、情報を収集し、**台風や豪雨、大雪が予想される場合、不要な外出は極力避けましょう。**

また、停電や濁り水などに備え、**備蓄品の確認を行いましょう。**



テレビ



ラジオ

●気象情報と対応

土砂災害警戒情報	土砂災害の危険性が高まっているときに発表されます。 土砂災害の危険性がある場所では、自主避難の目安です。
記録的短時間大雨情報	時間雨量 100 mmを超える雨が降ったときに発表されます。 市内で災害発生の危険性が非常に高まっています。
大雨特別警報	50年に1度以上の大雨が予想されるときに発表されます。 直ちに命を守る行動が必要となります。
はん濫危険情報	河川はん濫のおそれがあるときに発表されます。 河川の近くなどでは、早めの避難を行うことが必要です。

2 積乱雲の予兆現象を見たら、直ちに屋内に避難する

集中豪雨、ゲリラ豪雨、落雷、竜巻の原因は、**積乱雲（入道雲）**です。

●積乱雲の予兆現象

- ・**辺りが急に暗くなる**……巨大な積乱雲が空をさえぎるため
- ・**雷が聞こえる**……巨大な積乱雲の下で落雷が集中するため
- ・**冷たい風を感じる**……積乱雲の下の重い冷気が、暖かい側に流れ出すため

3 最適な避難行動を

(1) 避難勧告等でのべき行動

名取市からの避難勧告などがあつた場合、状況に応じ適切な行動をお願いします。

区 分	とるべき行動
避難準備情報	非常持出品の確認など避難の準備を行います。 災害時に支援が必要な方は、早めの避難を心がけましょう。
避難勧告	自宅の2階などに避難します（垂直避難）。 低い土地の平屋や崖の近くでは、早めの避難を行います。
避難指示	記録的大雨情報が発表されたときなど、災害の危険が切迫しているときに発表されます。直ちに命を守る行動をとって下さい。
自主避難	市からの勧告等がなくても、災害の危険性が迫っていると判断した場合は、必要に応じ速やかに避難して下さい。

(2) 伝達方法

市からの避難指示、避難勧告は、防災行政無線となとらじFM80.1MHz、エリアメール、テレビのテロップ、ホームページなどで伝達します。

エリアメールやテレビのテロップで市からの避難勧告を知つた場合は、「なとらじFM80.1MHz」で、市からの情報を入手してください。

4 土砂災害の恐れがある場合は、早めに避難する

館腰地区には土砂災害警戒区域及び土砂災害危険箇所に指定されている区域があり、以下のホームページで確認できます。

土砂災害警戒区域：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sabomizusi/kasyo-natori.html>

土砂災害危険箇所：<http://www.dobokugis.pref.miyagi.jp/>

洪水時や夜間の避難には危険が伴う可能性があるため、土砂災害の恐れのある付近では、早めの避難、特に、明るいうちの避難を心がけましょう。

既に避難が危険になっている場合は、自宅の2階や斜面から遠い部屋、または近所の安全なお宅に避難するようにしましょう。



土砂災害の前兆現象に注意！

- ・ 斜面に亀裂が走る
- ・ 異音がする
- ・ 異臭がする
- ・ 地鳴りがする
- ・ 斜面から小石が落ちてくる

以上のような前兆現象があつた場合は、直ちに避難行動を開始しましょう！！

5 館腰地区の災害予防計画

みんなで災害予防活動に取り組みましょう。

個人でできること（自助）～自分の命は自分で守る～

1 防災に関する知識及び技術の修得

防災訓練や防災講座に参加し、防災に関する知識や技術を修得しましょう。

2 災害時のシミュレーション・家族の話し合い

災害が起きたときの対応について家族で話し合い、避難方法や避難場所、電話が繋がらなくなったときの集合場所などを事前に決めておきましょう。

3 非常持出品と災害備蓄品の準備

停電や断水などに備え、非常持出品と災害備蓄品を準備しましょう。

館腰地区の東日本大震災で不足した物資

～災害備蓄の参考にしましょう～

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 飲料水と食料（3日分の備蓄） | 5 自転車（燃料がいらない） |
| 2 生活用水（風呂の水を捨てない） | 6 紙おむつ（子供、大人） |
| 3 ガソリン等の燃料（半分になったら給油） | 7 石油ストーブ（停電でも使える） |
| 4 ろうそく、マッチ、乾電池（火災に注意） | 8 携帯電話の充電 |

4 家具などの転倒防止対策の実施等

特に寝室や脱出経路は、重点的に実施しましょう。

昭和56年5月31日以前の建物は耐震診断を受けましょう。名取市では耐震診断の支援を実施しています。

火災に備え住宅用火災警報器と消火器を設置しましょう。



家屋の倒壊

5 近所とのコミュニケーション

いざという時に協力しあえるよう、日頃から近所の方とコミュニケーションをとり、声を掛け合える関係を築きましょう。



家具等の転倒

町内会・自主防災組織でできること（共助）～自分たちの地域は自分たちで守る～

1 町内会単位で一時避難場所を確保

指定避難所が遠い場合や道路が寸断された場合、近くの一時避難場所に避難することになります。町内会単位で、集会所や公園など、地域の一時避難場所を定めましょう。

2 災害時の役割分担や活動マニュアルの確認

役員交代の際など、安否確認、避難誘導などの役割分担や活動手順を確認しましょう。

3 防災訓練や啓発の実施

各町内会で年1回、安否確認や避難訓練、初期消火や応急手当、炊出しなどの訓練、防災マップや防災マニュアルの学習、防災講話などを実施しましょう。



4 防災資機材の整備

集会所や公園など地域の一時避難場所に防災資機材を整備し、使用できるようにしておきましょう。

5 災害時要支援者への支援

お年寄りなど、災害時に支援が必要な人を確認しておきましょう。

館腰地区でできること（共助）～地域ぐるみの防災体制をつくる～

町内会・自主防災組織の連絡協議会を設立し、館腰公民館を拠点に地区全体で協力できる体制を作りましょう。

1 地区防災体制の構築

災害時の地区の活動、連絡体制について事前に定めておきましょう。

2 地区防災訓練の実施

避難所となる学校や公民館で防災訓練を実施しましょう。

3 地区防災講座・防災研修会の実施

地区防災講座や防災研修を企画し、情報交換を行うことにより自主防災活動のさらなる向上を目指しましょう。

●避難所の運営

津波被災地域からの避難者を受け入れた館腰小学校では、地域住民などの支援のもと、避難者による良好な自主運営が行われました。

- ・体育館で 30 人ずつのグループを 12 班作り、各班から 3 名ずつの代表を選び、2 班 1 組で食事当番にしました。
- ・器を調達し茶碗とお碗として、繰り返し使用するようになりました。20 人以上で苦勞してお握りを作っていた作業が、ご飯と味噌汁をよそう 4 人で済むようになりました。
- ・トイレ用にバケツを 20 個用意し、使用した人がプールから水を汲むことにしました。
- ・ペットの飼い主を集め、用具入れとテントを飼育場所にしました。

町内会・自主防災組織を中心に、助け合って避難生活を送りましょう

市職員や施設職員の指示に従い、町内会や自主防災組織の役員を中心に次の協力をお願いします。

1 避難所の開設・避難者の収容

建物の安全が確認されるまで、町内会ごとに建物の外で待機し、職員の指示に従い避難所に入ります。

2 初期の避難生活 ～避難勧告などが解除されるか、電気・水道の復旧まで～

避難人数の確認、避難者名簿の作成、簡易トイレの設置、市からの食料・物資の配布などについて、協力をお願いします。

3 長期の避難生活

町内会などの単位で班を編成し、避難所自主運営組織を作り、役割分担を定め、避難生活を行います。



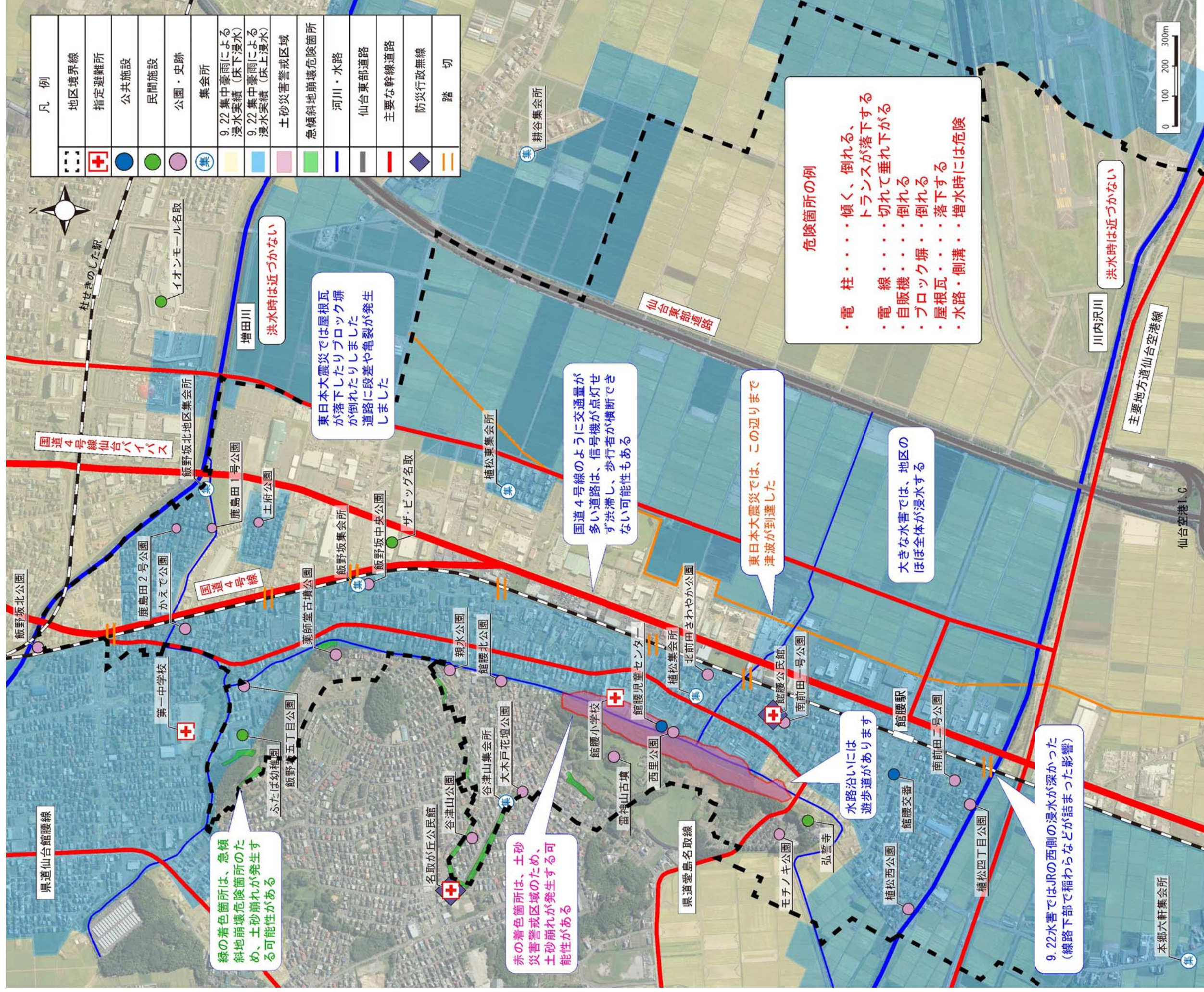
避難所では、高齢者や妊産婦などの災害時要支援者を思いやり、女性や子供に配慮してより良い環境を作りましょう。

●避難所への物資の持ち寄り

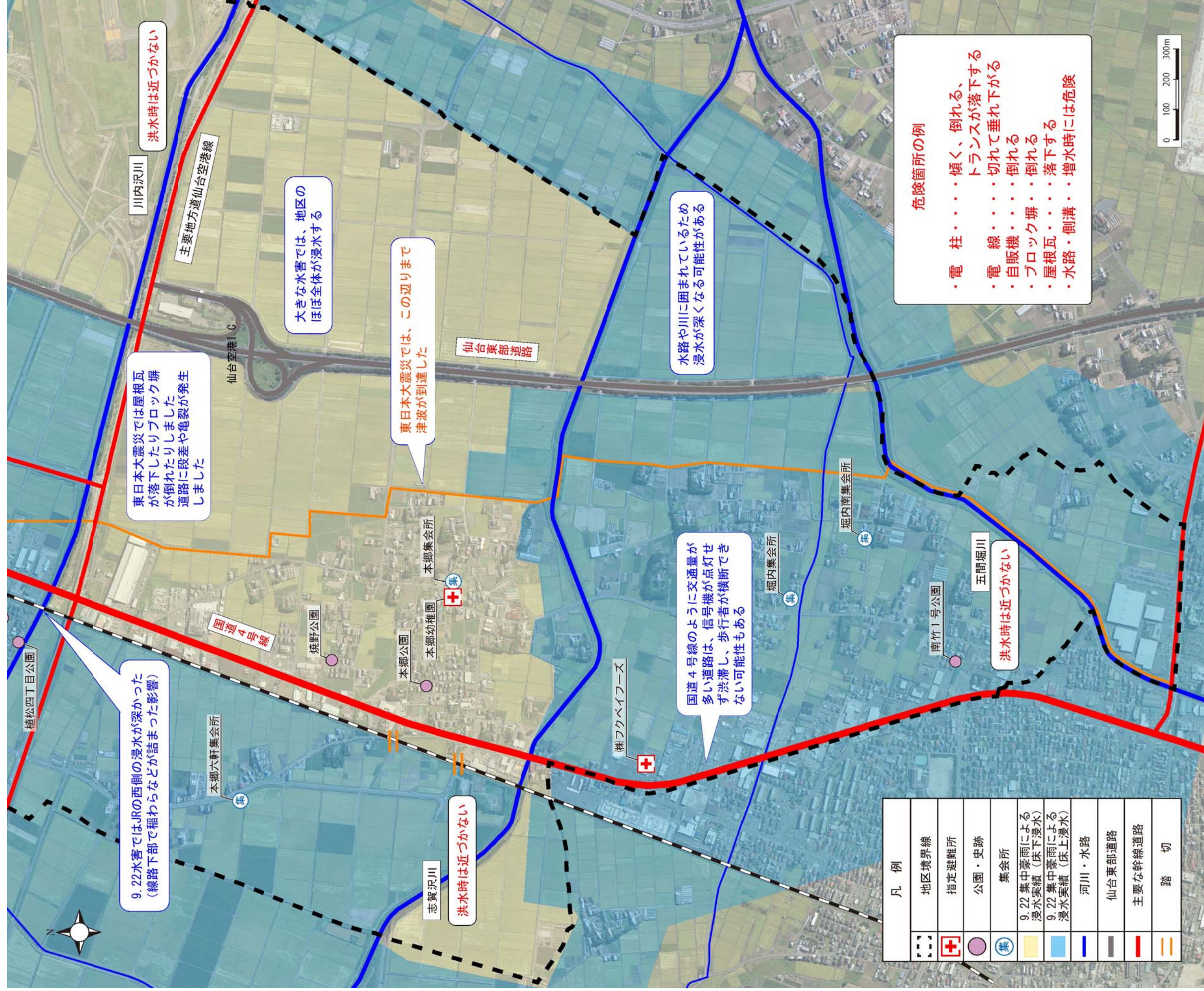
救援物資は、発災直後は届きません。市からの支援が届くまで、食料の個人の持ち寄り、各自の防寒着、寝具の持ち寄りが重要です。

7 館腰地区防災マップ

< 飯野坂地区・植松地区 >



浸水範囲は平成6年9月22日豪雨災害の浸水実績です。これ以上の被害になることがあります。



浸水範囲は平成6年9月22日豪雨災害の浸水実績です。これ以上の被害になることがあります。

8 平成 25～26 年の災害と教訓

全国で発生した災害から災害時の行動を考えましょう。

災 害	状 況	教 訓
秋田・岩手豪雨 (H25. 8. 9) (時間雨量 100mm 超)	秋田・岩手の各地で観測史上最大の雨量を記録し、洪水はん濫が発生、土石流などにより 8 人が亡くなった。	気象庁は、 局地的豪雨を正確に予測することは現行技術では難しい と会見
越谷市の竜巻 (H25. 9. 2) (風速 50～69m)	発達した積乱雲により竜巻が発生し、長さ 19km、幅 300m にわたり、家屋や屋根が吹き飛ばす、ガラスが飛び散るなどの被害が発生した。	埼玉県で全壊 12 棟、半壊 31 棟、重症 7 人、軽症 56 人⇒ 竜巻や積乱雲の前兆現象を見たら屋内に入る。
伊豆大島の土砂災害 (H25. 10. 16) (時間雨量 100mm 超)	台風 26 号により、伊豆大島で 1 時間に 100 mm 以上、24 時間で 824 mm の記録的な大雨となり、大規模な土砂災害が発生した。	大島町で、全壊 46 戸、死者・行方不明者 39 人⇒ 土砂災害から命を守るためには避難が必要
平成 26 年 2 月の大雪 (H26. 2. 14～16) (山梨県で観測史上最大の大雪)	前線を伴った低気圧が発達し、各地で大雪となり、9 県で 26 人が死亡、全国で重症 118 人、軽症 583 人の被害が発生した。120 年間 50cm 以上の雪が積もらなかった山梨県に 100cm 以上の雪が積もった。	死者は、倒壊した車庫等の下敷きで 7 人、屋外で 7 人、車内の一酸化炭素中毒等で 5 人、除雪事故で 4 人、上部からの落雪で 3 人⇒ 不要な外出を避ける。
南木曾町の土砂災害 (H26. 7. 9) (時間雨量 80mm)	局地的豪雨により、大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報発表前に土砂災害が発生した。白い雨 (80mm 以上の雨) が降ったら、蛇がぬける (土石流が起きる) との石碑があった。	局地的豪雨では、警報が間に合わない場合がある⇒ 雨の降り方から自己判断が必要な場合もある。
四国地方の大雨 (H26. 7. 7～11) (累計雨量 1,000mm 超)	台風 11 号と前線により、四国から東海にかけて 600 mm を超える大雨となり、5 県で 6 人が亡くなった。 高知県では累計雨量が 1,000 mm を超えたが、死者はなかった。	川と海水浴場で 3 人、落雷で 1 人が亡くなった。 ⇒ 不要な外出を避ける。台風の常襲地帯では、風水害への備えが徹底している。
広島県の土砂災害 (H26. 8. 20) (時間雨量 100mm 超)	1 時間に 100mm を超える猛烈な雨により、土砂災害が発生し 74 人が亡くなった。	就寝中に予期せぬ猛烈な雨になることもある⇒ 雨音や雷から状況判断が必要
長野県北部地震 (H26. 11. 22) (最大震度 6 弱の直下地震)	22 時 8 分頃、長野県北部を震源とする地震が発生。白馬村で建物が全壊し、住民が閉じ込められたが、近隣住民の速やかな救助活動により、全員無事に救出された。	直下地震で建物が倒壊したときなど、 個人の力ではどうしようもないとき、隣近所、町内会などの共助が力を発揮する。

9 我が家の防災メモ

<家族の状況>

氏名	かかりつけの病院	携帯電話番号
生年月日	持病・常備薬	会社・学校等の名称
血液型		会社・学校等の電話番号
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
避難場所		
家族の集合場所		

＜我が家の状況＞

東日本大震災での状況	家具の転倒	有 ・ 無
9・22 集中豪雨の時の状況	床上浸水 ・ 床下浸水 ・ 浸水なし	
建築年	昭和 ・ 平成	年 （ 昭和 56 年より 前 ・ 後 ） ※昭和 56 年以前の建物は耐震診断を受けましょう
家屋の構造	平屋 ・ 2 階以上	／ 木造 ・ 軽量鉄骨
	平屋の場合：浸水時の避難先	[]
家の周り	浸水しやすい地域である	はい ・ いいえ
	近くに斜面などが	ある ・ ない
	風で飛ばされやすいもの	ある ・ ない
災害時の備え	非常持出し品の用意	有 ・ 無
	災害備蓄品の用意	有 ・ 無
	携帯ラジオの用意	有 ・ 無
	消火器の用意	有 ・ 無

＜防災カード＞

氏名：	生年	年
	月日	月 日 生
住所：		
電話番号：	血液型	Rh + ・ -
家族（保護者）	氏名：	
	電話番号：	
会社・学校等の住所：		
電話番号： (外側に折る)		
かかりつけの病院：		
持病・常備薬：		
その他：		

氏名：	生年	年
	月日	月 日 生
住所：		
電話番号：	血液型	Rh + ・ -
家族（保護者）	氏名：	
	電話番号：	
会社・学校等の住所：		
電話番号： (外側に折る)		
かかりつけの病院：		
持病・常備薬：		
その他：		

※コピーしてカバンなどに入れて携帯しましょう

館腰地区の避難場所

区分	名称	電話番号
指定避難所	館腰公民館	022-382-2006
	館腰小学校	022-382-2425
	本郷幼稚園	022-382-2524
	(株)フクベイフーズ	0223-29-3211
	第一中学校	022-382-3321
地域の 一時避難場所など	飯野坂北地区集会所	—
	飯野坂集会所	—
	谷津山集会所	—
	植松東集会所	—
	植松集会所	—
	本郷六軒集会所	—
	本郷集会所	—
	堀内集会所	—
	堀内南集会所	—

平成27年3月現在

災害時の連絡先

区分	名称	電話番号
市役所	名取市役所	022-384-2111
警察 110	岩沼警察署	0223-22-4341
	館腰交番	022-380-2066
消防 119	名取市消防本部	022-382-0242
名取市休日急患センター		023-384-0001
災害伝言ダイヤル		171

親戚・知人などの連絡先

氏名	電話番号	備考

名取市総務部防災安全課

〒981-1292 名取市増田字柳田 80

電話 022-384-2111